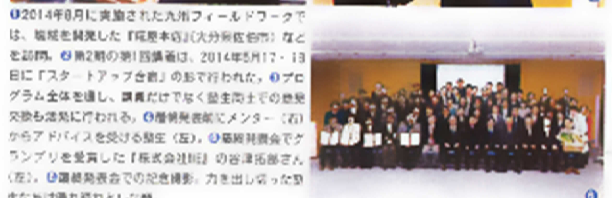
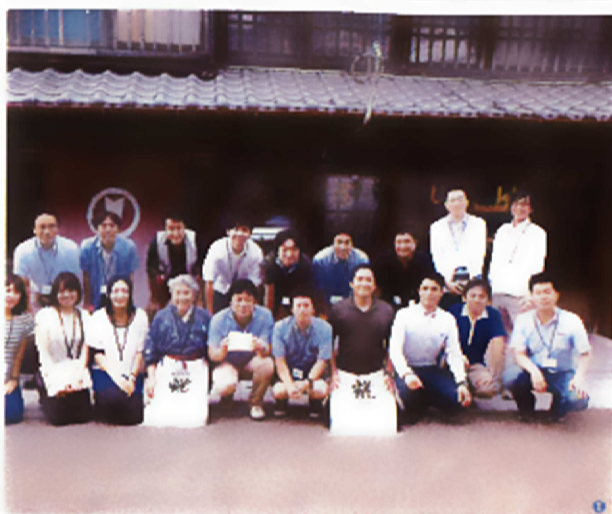


ソトボラ新聞

ソトコトによるボランティア支援のための新聞が好評発売中。
東日本大震災の被災地で獅子奮迅の活躍をする
ボランティア情報を、現場から熱くレポートします。
文：小島まこと 写真：菅野佑哉・三浦聖平・中野伸之助・小島まこと

福島の未来を拓くリーダーを育てる。

福島 産官学が連携した人材育成プログラム「ふくしま復興塾」



2014年8月に実施された九州フィールドワークでは、飯塚を視察した『既報本店』(大分県佐伯市)などを訪問。第2期の第1回講義は、2014年5月17・18日に「スタートアップ企業」の形で行われた。プログラム全体を通して、講義だけでなく塾生同士での勉強会も活発に行われる。産官学連携にメンター(右)からアドバイスを受ける塾生(左)。最終発表会でグランプリを受賞した『株式会社川』の谷津浩徳さん(左)。最終発表会での記念撮影。力を出し合った塾生たちは笑顔溢れる瞬間。

1月20日に郡山市で開催された最終発表会で披露された。15名の塾生がプレゼンテーションとポスターによる各自のプロジェクトを発表。最後には表彰が行われ、日本賞(飯塚復興)と「シャトル」に勤める亀田さんの「福島県・飯塚町の伝統工芸品大相模製海外展開事業プロジェクト」と、いわき市で眼科医として働く田原泰さんの「歯づくりのための産官学連携プロジェクト」が最優秀賞を受賞した。

http://fukushima-f.com

復興を支え、地域を変えるプロジェクト
①福島の現状をどう捉えるか、福島復興に取り組みたいと覚悟を持ったリーダーを育成する。②人類史上稀に見る原発災害が発生した福島だからこそ、現在化してきたニーズや課題を解決する事業を起す。③2点を目的として2013年度に開始した「ふくしま復興塾」。2期目となる2014年度は、起業家や民間企業社員などを対象とした「民間領域コース」と、行政職員やNPO職員などを対象とした「公共領域コース」の2コースを設けた。20

代・30代の若者たち19名が官民さまざまな分野で活躍している多彩な講師陣による月1回の講義や、福島県岩手県や九州でのフィールドワークを通して、7か月にわたって事業プランの立案を行った。第2期の特徴は、第1期の卒業生や監査法人トーマツの社員が「メンター」として塾生をサポートしたこと。各自のプロジェクトを具体化するためのメンターを交えて徹底的に議論する機会が設けられた。塾生それぞれがそれぞれの事業プランは、2014年

産官学連携した人材育成プログラム「ふくしま復興塾」が、2014年度も好評開催された。このプログラムは、産官学連携による人材育成プログラム「ふくしま復興塾」の2期目を担当した。このプログラムは、産官学連携による人材育成プログラム「ふくしま復興塾」の2期目を担当した。このプログラムは、産官学連携による人材育成プログラム「ふくしま復興塾」の2期目を担当した。